

## 令和4(2022)年「正覚寺報」7月号

## お知らせ

四回目のコロナワクチン接種の案内を受け取るというのは全世界の人々に比べてまことに勿体ないことですが、ワクチンには有効期限もありますので有難く接種させて戴くこととあります。感染率が一定の高さで推移する現実を考ますと、外出会合時にはきちんとした「マスク着用」が基本であり、入室・帰宅時には「手指洗浄」を心がけねばなりません。

記

7月3日(日)19時半 佛壮お聴聞の会

7月16日(土)19時半 佛婦例会

## 聞即信の本質をいただく

去る六月二十六日の境内清掃奉仕作業にご精を出して戴いた皆様には急な暑さの中大変ご苦労様でした。有難うございました。

浄土真宗のお法りが、現代社会に伝わっていくかどうかは、同時に浄土真宗のお法りが全世界に伝わっていくかどうかに通じる課題であります。

如来様から回向された御念仏(大行)を仰せの通りに頂戴して称えるとき、如来様のお喚び声が私を揺り動かして下さる(私が喚びさまされる)という現実体験に恵まれるかどうかに関わる大事な課題であります。

お西の妙好人、六連島のお軽さんは、

「昨日聞くのも 今日また聞くも

是非にこいとのお喚び声」

とお歌いになり

お東の学僧一蓮院秀存師(1788~1860)は、

「勅命は、ただ一声と思ひしに

今日も来る日も弥陀の喚び声」とお歌いになりました。

「昨日聞くのも 今日また聞くも」も

「今日も来る日も」というのは、お二人ともお念仏三昧の中にいらっしゃったお姿を表しています。

丁度同じ頃、長門国 江崎 教専寺第十代住職でいらっしゃった大蔵和上(1791~1865)を思い起こさないはおれません。

大蔵和上はいつも大きなお声でお念仏を称えていらっしゃいました。そのことから和上の信心は「称名正因」ではないかとの疑いをかけられ異安心だと本山に訴えられました。本山からその調査に原口針水和上が派遣されましたが、これに対して自らの胸中を吐露された詩が大悲招喚の詩だったといわれます。それは、

もう極仏恩報謝情(もう極の仏恩報謝の情)

清晨幽夜唯称名(しょうしんゆうやただ名を称う)

堪歡吾称雖吾聽(歡ぶに堪えたり吾称え吾聽くと雖も)

此是大悲招喚声(これはこれ大悲招喚の声なり)

極まりなき仏恩に報謝の思いで朝な夕なただみ仏のみ名を称えています。まことに悦ばしいことには、私が称え、私がお聞かせに与る南無阿弥陀仏は、「さあ、お浄土へ連れて行くぞ、心配せずに私に任せよ」と招き喚び続けていて下さる如来大悲招喚の勅命でありました(Ref 梯 實圓和上 自照社出版「如来のよび声に気づく」2)p53)。合掌